

# 大熊町社会教育複合施設の方針

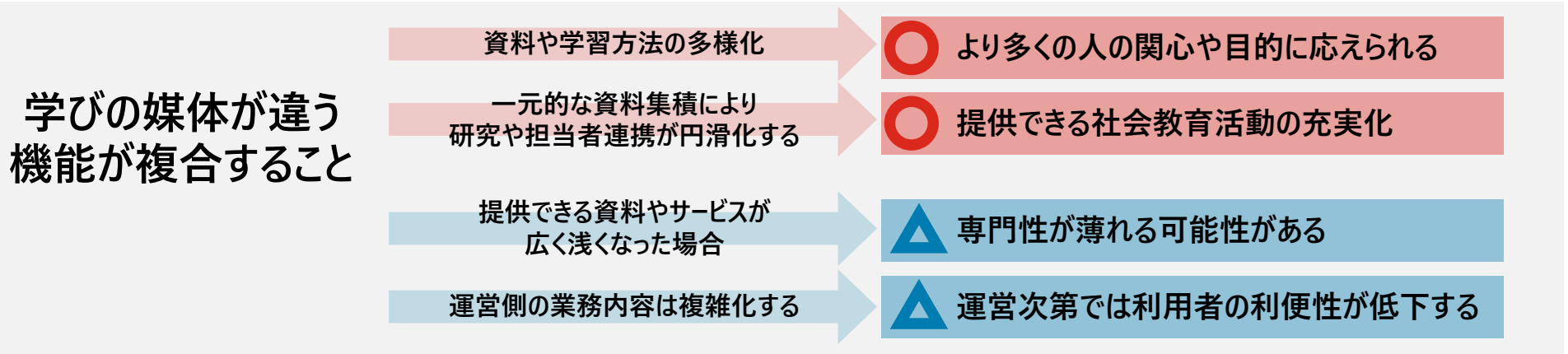
## 利用者が **大熊を学ぶ場** となる

- ✓ 大熊町に関する資料や情報、人材等を集積し、来訪者が大熊を知り、共有し、自分たちの暮らしやまちに活かしていく学びと交流の拠点
- ✓ 大熊の歩みや現状を学ぶ
- ✓ 大熊で、大熊の人と学ぶ

## 利用者が **大熊の記憶と記録を預ける場** となる

- ✓ ふるさと大熊に対する町民の思いを預かり、現在の町の町民、未来の町民をはじめ、町に関わる人たちにつなげていく拠点
- ✓ 町にゆかりのある人たちが思いを託す
- ✓ 未来の町民が土地のルーツを知り、つなぐ

# 複合化する効果と懸念点



## 利用者

## 運営者（大熊町）

### 期待される効果

- ✓ 資料の多様化
- ✓ 資料の多様化に伴う、来館目的の多様化
- ✓ 利用者、目的の多様化による新たな交流のきっかけの増加
- ✓ 町に関する情報の一元化
- ✓ 情報を自ら望む方法で収集
- ✓ 記録や記憶を伝える媒体（例モノ資料、証言など）を限らない集積先の一本化
- ✓ 1か所で複数の目的を果たすことができる利便性の向上

- ✓ 多様な関心や目的に応えることができる
- ✓ 帰還や来訪、交流人口、関係人口拡大の呼び水になる
- ✓ 一元的な町の情報発信拠点があることによる町職員の視察対応等負担軽減
- ✓ 集積が一元化されることによる資料、研究の充実
- ✓ 担当者の連携が容易になることによる社会教育事業の充実
- ✓ 単館での設置に対し、維持管理コストの削減、館としての持続可能性の促進
- ✓ 最少の人員配置を可能にする

### 懸念

- ✓ 単館での設置に対し、専門性や規模が縮小することによる満足度の低下
- ✓ 小規模化した場合、コンテンツが一般化／特化する可能性
- ✓ 目的が多様化し、何の施設が分かりにくくなる（人によっては目的が達成しにくくなる）
- ✓ 旧図書館解体による喪失感

- ✓ 施設規模によって整備費、維持管理費が増加
- ✓ 設計時に各機能ごとの注意点を総合的に把握する必要性
- ✓ 縦割り行政を防ぐ組織運営体制の構築
- ✓ 運営時間の違い等による管理の複雑化、人員の増加
- ✓ 異なる職業文化を持つ専門職員を「融合」させることによる専門性の低下
- ✓ 専門性が多岐にわたることによる管理運営の担い手確保の難易度向上
- ✓ 1か所で目的が果たせることによる回遊性の低下